

佳作

かえってきたくわたろう

鹿児島県 鹿児島市立春山小学校一年 田島廉

ぼくはいま、くわがたをかっています。そのくわがたは、かぞくでおでかけからかえってきたときにおかあさんのかばんについていました。はじめにきづいたおかあさんが

「ごきぶり。」

とさけんだったので、みんなびっくりしました。でもぼくは、それがすぐくわがたとわかって、

「くわたろうだ。」

といいました。

くわたろうというのは、きよねんおとうさんのおしごとばのひとからもらってきたくわがたのことです。ぼくは、そのときうまれてはじめてくわがたをみました。なんてかっこいいのだからとわくわくしました。でもすこしうごくだけでびくっとおどろいて、なかなかじぶんでは、さわる事ができません

んでした。

「ほら、かっこいいだろう。ちょっとたたかわせてみよう。」

とおとうさんがむしかごからてえぶるにとりだして、つまようじをはさませたり、ちいさいおもちゃをやると、それをてきだとおもってつかみかかったりして、ほんとうにたたかっているみたいでした。ぼくは、こんなちいさなからだでちからづよいなあともいえました。

それからまいにちたたかいをみたくてかごとからとりだしてあそんでいました。

あるひ、くわたろうは、うごかなくなりしました。えさのぜりのうえにおいてても、なめてるようすがありません。しんでしまったのです。おかあさんが「あまりさわりすぎて、すとれすがかかっちゃったのかな。」

といいました。そのときのぼくには、わかりませんでした。

そしてぼくは、いちねんせいになりました。またなつがやってきて、あのとときかなしいおわかれをしたけど、またくわたろうがかえってきてくれたみたいで、すごくうれしくなりました。ぼくは、としよ

しつでむしのほんをかりました。もちろんくわたろうも
うものっていました。くわがたのかいかたをぼくは、
いろいろべんきょうしました。くわたろうがよろこ
ぶおうちをよういしました。くわがたは、あおむけ
になって、いつまでもおきあがれないとしんでしま
うそうです。そうならないように、かれはをしきつ
めてのぼりぎもおきました。きゅうりやすいかは、
すいぶんがおおすぎて、おなかをこわすそうです。
えいようたっぷりのぜりいもあげて、これでかんぺ
きです。これできよねんみたいにすぐしんでしまう
ことはないとおもいます。

まいにちかんさつしてもっともつとつよいくわた
ろうにそだてたいです。いちねんぶりにぼくのどこ
ろにかえってきたのだから。